

NPO 法人ふくしま 30 年プロジェクト 平成27 年度活動事業報告



福島市南矢野目字夜梨 4-1
「CHANNEL SQUARE」内

事業期間

平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

日にち	主な事業内容
平成 27 年 4 月 6 日	流通品測定プロジェクト開始
平成 27 年 4 月 10 日	平成 27 年度 ホットスポットファインダー測定(お散歩コース・通学路) 開始
平成 27 年 4 月 18 日	測定室内ファントム校正 (～23 日)
平成 27 年 4 月 21 日	表面汚染計(TGS-146)納品
平成 27 年 4 月 27 日	事業・会計監査
平成 27 年 4 月 28 日	ふくしまくらす交流会「まずは知ることから始めよう」
平成 27 年 4 月 29 日	平成 27 年度 みんなのデータサイト「東日本土壌ベクレル測定プロジェクト」 開始
平成 27 年 5 月 7 日	理事会
平成 27 年 5 月 10 日	山田真医師「CHANNEL SQUARE」見学
平成 27 年 5 月 14 日	通常総会
平成 27 年 5 月 30 日	ふくしまくらす交流会「まずは知ることから始めよう」
平成 27 年 6 月 11 日	ふくしま未来基金キックオフ会出席
平成 27 年 6 月 16 日	ふくしまくらす交流会「保養について考える」
平成 27 年 7 月 1 日	ふくしまくらす交流会「福島産農産物について JA 新ふくしま菅野組合長と考える」
平成 27 年 7 月 6 日	ホットスポットファインダー納品
平成 27 年 7 月 11 日	川原茂雄氏セミナー「教育と原発マネー」
平成 27 年 7 月 12 日	東和 WBC 第 7 回測定 (～14 日)
平成 27 年 7 月 19 日	こども放射線ワークショップ(測定体験・見学) 立命館宇治高校(サークル名ビヨンド)
平成 27 年 7 月 21 日	那須町保健センター ファントム校正 (～23 日)
平成 27 年 7 月 23 日	こども放射線ワークショップ (～8 月 11 日 計 6 回開催)
平成 27 年 7 月 28 日	伊藤英氏 ピアニカライブ
平成 27 年 9 月 6 日	「ふくしまオーガニックフェスタ 2015」出店 こども放射線ワークショップ (放射能クイズ)
平成 27 年 9 月 13 日	山田真医師セミナー「『甲状腺・免疫力について聞いてみよう』」
平成 27 年 9 月 30 日	認定 NPO 法人いわき市民放射能測定室たらちね研修会
平成 27 年 10 月 2 日	土田英順氏 チェロコンサート
平成 27 年 10 月 19 日	タケダ・いのちとくらし再生プログラム中間情報交換会出席 (宮城県仙台市)
平成 27 年 10 月 22 日	曹洞宗での講演会
平成 27 年 11 月 21 日	山形保養「じゃんじゃんキャンプ in 山形」(大江町山里交流館やまさあーべ) (～23 日)
平成 27 年 11 月 22 日	ふくしまくらす交流会「保養について考える」
平成 27 年 11 月 22 日	「みんなのデータサイト総会&土壌プロジェクト第 1 期報告会」
平成 27 年 11 月 29 日	第 1 回福島原子力災害対策・復興研究会
平成 27 年 12 月 10 日	ふくしまくらす交流会「震災後の生活について話そう」(みんなの家@ふくしまとの共催)

平成 27 年 12 月 13 日	甲状腺検診(認定 NPO 法人いわき市民放射能測定室たらちねとの共催)
平成 27 年 12 月 24 日	こども放射線ワークショップ
平成 27 年 12 月 26 日	秋田県避難者の福島市視察ツアー出席(みんなの家@ふくしま)
平成 28 年 1 月 9 日	会津保養「雪あそび in 会津自然の家」(福島県会津自然の家)(~10 日)
平成 28 年 1 月 23 日	西東京市公民館市民企画事業公開講座「放射能汚染と向き合うための基礎知識」出席
平成 28 年 1 月 26 日	東和 WBC 第 8 回測定 (~29 日)
平成 28 年 2 月 7 日	「福島 - ころつなぐ広場 - 」出店
平成 28 年 3 月 13 日	ふくしまくらす交流会「教職員同士が語る、子どもの心のケア・放射能教育」
平成 28 年 3 月 13 日	甲状腺検診(認定 NPO 法人いわき市民放射能測定室たらちねとの共催)
平成 28 年 3 月 19 日	猪苗代保養協力「福島ほかほかプロジェクト」(主催:認定 NPO 法人 FoE JAPAN)(~21 日)
平成 28 年 3 月 25 日	山梨保養「じゃんじゃんキャンプ」(山梨県甲府市 塩の山ヴィレッジ)(~28 日)
平成 28 年 3 月 27 日	ふくしまくらす交流会「福島の子育てで足りないこと、必要なこと」
平成 28 年 3 月 27 日	みんなのデータサイト 土壌プロジェクト・測定室交流会&土壌プロジェクト第 1 期第 2 回報告会
平成 28 年 3 月 31 日	こども放射線ワークショップ

活動報告

●食品・環境放射能測定

食品・環境測定において測定依頼の減少傾向は変わらず、自主的に行う流通品測定や土壌測定といったプロジェクトが測定のメインを占めました。これら助成金を元にしたプロジェクトによって測定関連の運営を行っていることが、より鮮明になった年でした。

通年を通して行った「流通品測定プロジェクト」では210検体の測定を行いました。春から夏にかけては野菜を中心に測定を進めましたが、秋からは福島市が果樹王国と言われることから果実※をそれぞれの品目ごとに20~30件測定しました。柿は一般家庭でも栽培しているので流通品との比較ができ、流通品と比べて検出するセシウムの数値が高いことが改めて確認できました。桃などの他の果樹では一般家庭での栽培が難しいために、セシウムの低減対策の有無を比較することができませんが、今回のプロジェクトで自家栽培と流通品の柿を比較したことで、果樹農家が行っている低減対策の効果を見ることができました。この他の流通品の果実も検出したセシウムの値は1~2ベクレル/kgといったところで、食品の基準値(100ベクレル/kg)よりもはるかに低いレベルでした。

こういった測定結果をニュースレターにまとめ、交流会やオーガニックフェスタで頒布したことで、一般に検出限界が高めに設定されていると言われる食品の詳細なデータが提示でき、交流会の参加者からは、数値がはっきりしたことで実際に食すかどうかの判断材料になったという評価を得ることができました。

年明けからは「みんなのデータサイト」の「東日本土壌ベクレル測定プロジェクト」の測定を中心にを行いました。3ヶ月で80検体ほどの測定を行い、福島県内の自治体の4分の1の地区の測定ができました。

「お米測定プロジェクト」については、平成26年度に引き続き、平成27年度も測定数が伸びませんでした。これは「流通品測定プロジェクト」に力点を置いたことと、平成25年度までのような積極的な呼び掛けを行わなかったことが影響しています。現時点では、電話など直接の声掛けを行わないと参加や協力を募るのは難しいことがより鮮明になりました。

同じく、尿測定についても事業計画に入れながら実施できませんでした。他のプロジェクトに労力をとられ、呼び掛けもほとんど行えなかった結果です。次年度からは多岐に渡って測定プロジェクトを行うと企画倒れになるので、これを反省点として少数に絞っていかねばなりません。

年度別の測定件数の増減を見ると、平成27年度は平成26年度よりも70件増となりました。しかし、平成26年度はゲルマニウム半導体検出器の不調と事務所引っ越しがあったため

に測定数が伸び悩んだので、それを考慮すると平成 27 年度は平成 26 年度並みと言えます。

※農林水産省では、概ね 2 年以上栽培する草本植物及び木本植物であって、果実を食用とするものを果樹として取り扱っており、果樹という呼び方が馴染まない場合は果実と記載する、とあるのでそれに準じて表記しました。

「流通品測定プロジェクト」は「タケダ いのちとくらし再生プログラム」、「土壌測定プロジェクト」は「ふくしま未来基金 まちづくり草の根助成」の助成金を活用させていただきました。

平成 27 年度測定実績

	NaI	Ge	合計
4 月	0	61	61
5 月	0	62	62
6 月	1	44	45
7 月	4	33	37
8 月	8	47	55
9 月	0	40	40
10 月	0	48	48
11 月	0	72	72
12 月	1	57	58
1 月	0	85	85
2 月	0	46	46
3 月	1	51	52
合計	15	646	661

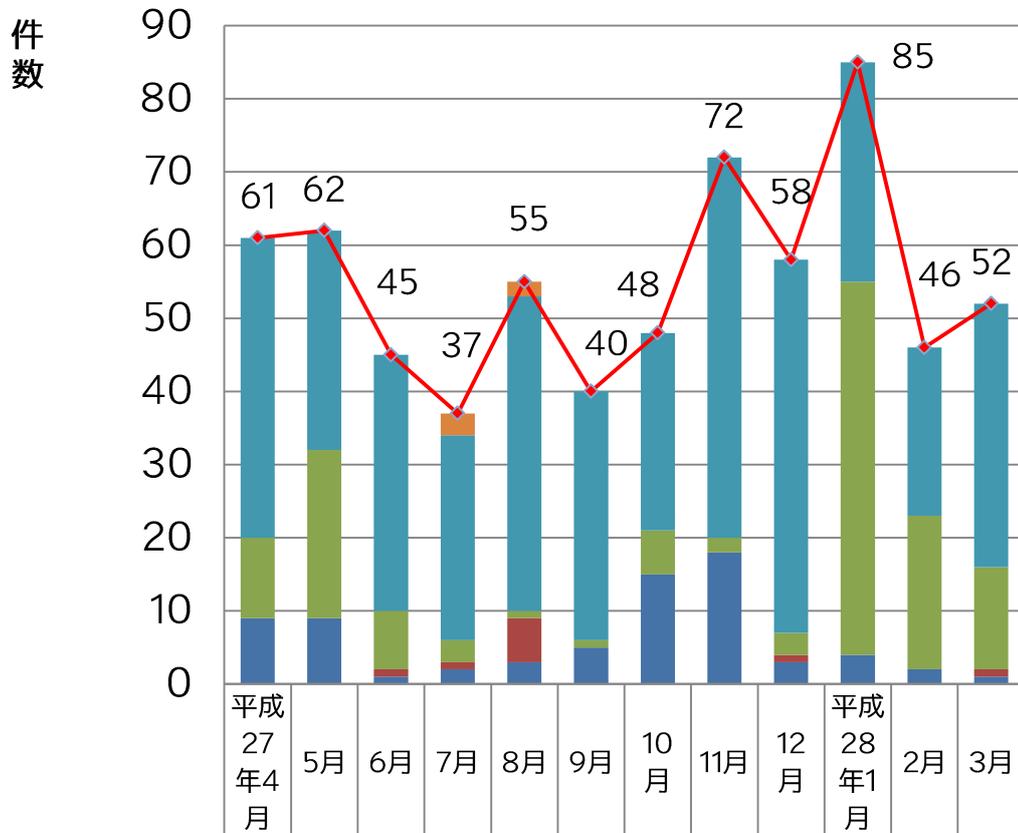
食品・環境別測定件数

食品	環境	土壌
435	82	144

年度別測定件数

平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
631	794	591	661

平成27年度食品・環境試料測定件数



食品(AT1320A)	0	0	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0
食品(Ge)	41	30	35	28	43	34	27	52	51	30	23	36
土(AT1320A)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
土(Ge)	11	23	8	3	1	1	6	2	3	51	21	14
環境(AT1320A)	0	0	1	1	6	0	0	0	1	0	0	1
環境(Ge)	9	9	1	2	3	5	15	18	3	4	2	1
合計	61	62	45	37	55	40	48	72	58	85	46	52

●ホールボディーカウンター(WBC)測定事業

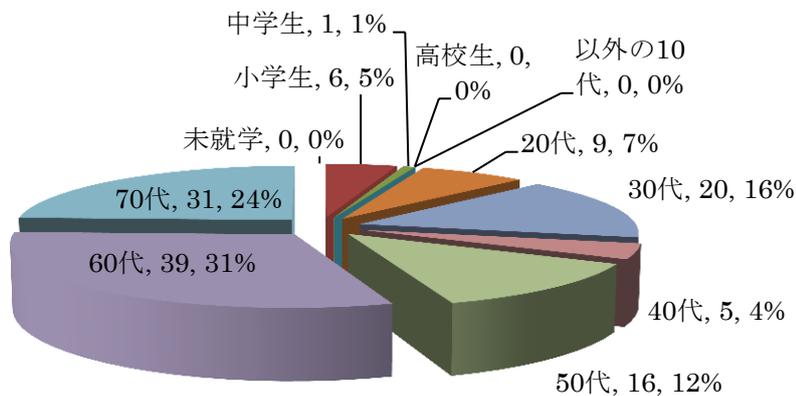
測定所の引っ越しがあり、5月中旬から測定を開始しました。今年度も農業者団体の測定を定期的に行いました。

年月	WBC 事業内容
平成 27 年 4 月	引越に伴う設置環境調整
平成 27 年 7 月	ゆうきの里東和ふるさと協議会第 7 回 WBC 測定
平成 27 年 8 月	ゆうきの里東和ふるさと協議会第 7 回 WBC 結果報告
平成 28 年 1 月	ゆうきの里東和ふるさと協議会第 8 回 WBC 測定
平成 28 年 2 月	ゆうきの里東和ふるさと協議会第 8 回 WBC 結果報告

1. 平成 27 年度の WBC 測定実績

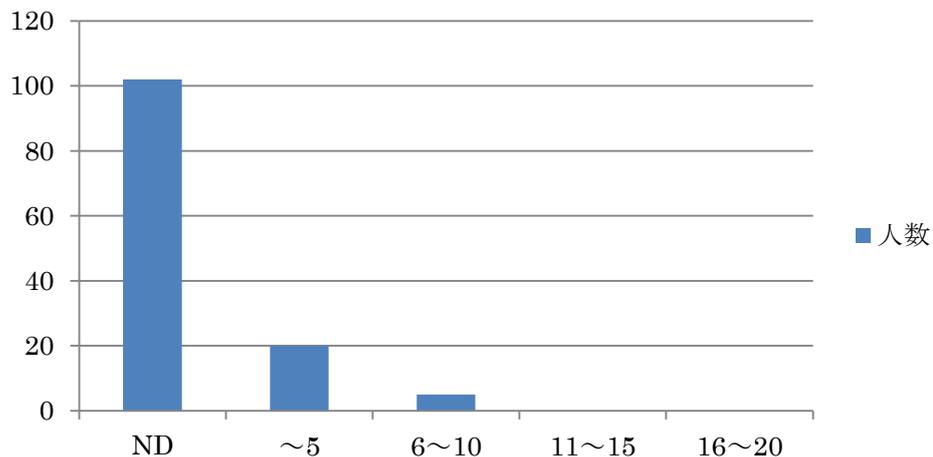
平成 27 年度の測定総数は、のべ 127 名となっています。その大部分が定期的に測定している農業者の方々でした。年齢的には 40 代以上の方が 7 割を占めています。

年代別測定割合 - 平成27年度

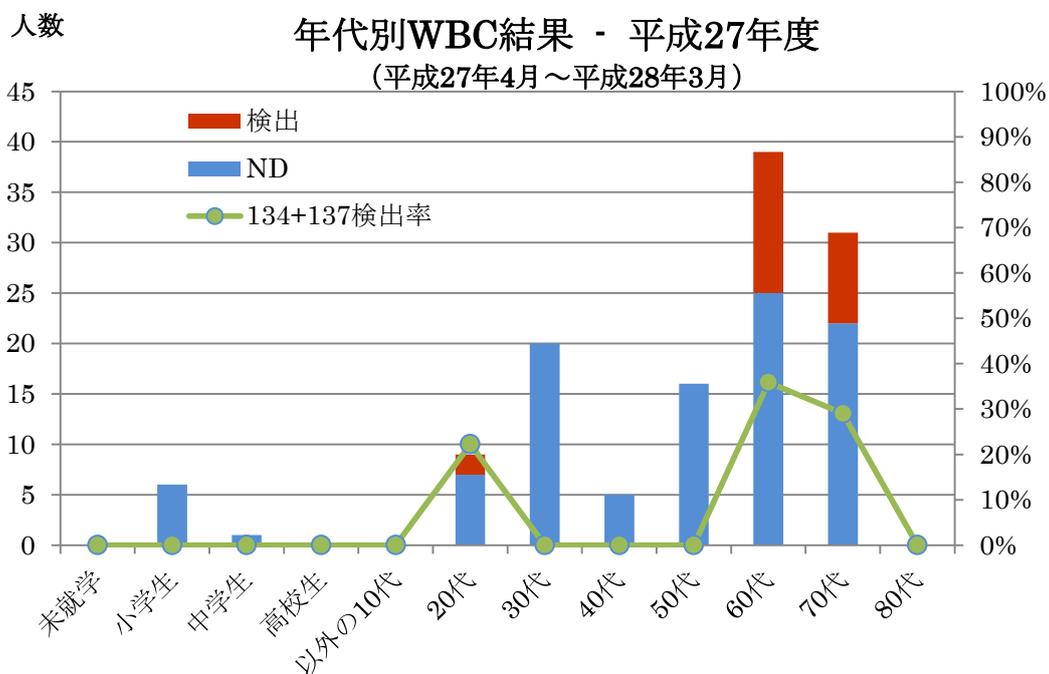


セシウム 137 が検出された方の人数はのべ 127 名中のべ 25 名 (19.7%) で最高値は 9.55 ベクレル/kg でした。なお、セシウム 134、137 がともに検出された方は 2 名でした。

濃度別検出人数 (Cs137 : Bq/kg)



年齢別では、60 代・70 代の方の検出率が高い傾向にあります。



農業者の WBC 測定には「一食(いちじき)福島復興・被災者支援事業」の助成金を活用させていただきました。

2. WBC 校正およびファントム・線源貸出事業

WBC のバックグラウンド校正および貸出等を下記のとおり 2 回行いました。なお、ファントム・線源は東京大学から借用しており管理運営をまかされています。

年月	依頼先	作業内容
平成 27 年 4 月	ふくしま 30 年プロジェクト	WBC BG 校正
平成 27 年 7 月	那須町保健センター	WBC BG 校正

●ふくしまくらす交流会 (セミナー含)

ふくしまくらす交流会は主催、共催を含め 8 回、放射線セミナーについては 2 回行いました。参加者のアンケート結果を見ると、交流会は概ね好評という結果を得ることができました。セミナーのうちの 1 回は、「教育と原発マネー」というデリケートなテーマだったこともあり、参加後の感想も賛否が分かれる結果となり、原子力災害の被災地で一般に向けて原発問題を扱ったセミナーを開催する難しさを感じました。

7 月や 9 月に行った、「福島産農産物について JA 新ふくしま菅野組合長と考える」「小児科医・山田真先生講演会『甲状腺・免疫力について聞いてみよう』』といった注目度が高い交流会やセミナーはネット中継をしてアーカイブも残し、当日参加できなかった方にも視聴してもらえるようにしました。

12 月の交流会は、「みんなの家@ふくしま」にて共催で行いました。現在の福島市の放射能をテーマに、自主避難から戻ったお母さんたちと話し合うというテーマだったので、弊法人が蓄積した放射能測定データを有効に活用することができました。

3 月の教職員の交流会では、児童が震災時に受けた心の傷が思春期を迎えたときにどのように影響し、そのケアをどのようにしていくかを中心に語り合いました。また、福島市での放射能の授業が年間 2 時間であることが知り、今後、子ども向け放射能ワークショップを行っていくための貴重な情報を得ることができました。

ふくしまくらす交流会には「タケダ いのちとくらし再生プログラム」、「赤い羽根『災害ボランティア・NPO活動サポート募金』」の助成金を活用させていただきました。

ふくしまくらす交流会（セミナー含）

	日にち	会場	内容	参加人数	備考
1	平成 27 年 4 月 28 日	CHANNEL SQUARE	「まずは知ることから始めよう」	17 名	
2	5 月 30 日	CHANNEL SQUARE	「まずは知ることから始めよう」	19 名	
3	6 月 16 日	げんき菜農園	「保養について考える」	15 名	
4	7 月 1 日	CHANNEL SQUARE	「福島産農産物について JA 新ふく しま菅野組合長と考える」	29 名	
5	7 月 10 日	CHANNEL SQUARE	セミナー「教育と原発マネー」	20 名	講師： 川原茂雄氏
6	9 月 13 日	げんき菜農園	セミナー「甲状腺・免疫力について 聞いてみよう」	21 名	講師： 山田真医師
7	11 月 22 日	大江町山里交流 館やまさあーべ	「保養について考える」	11 名	
8	12 月 10 日	みんなの家 @ふくしま	「震災後の生活について話そう」	10 名	共催：みんなの 家@ふくしま
9	平成 28 年 3 月 13 日	CHANNEL SQUARE	「教職員同士が語る、子どもの心 のケア・放射能教育」	6 名	
10	3 月 27 日	塩の山ヴィレッジ	「福島の子育てで足りないこと、必 要なこと」	26 名	共催：山梨じゃん じゃんキャンプ

●子ども向け放射能ワークショップ

子ども向け放射能ワークショップは食品の放射能測定と空間線量測定のと通りのコースを用意しました。子どもたちが、弊法人で使用している放射能測定器を使って測定することで、五感に感じない放射能を空間線量計が発する音や数値で実感してもらうように工夫しました。しかし、小学生低学年にとってはそれでも放射能を実感することは難しく、活動に集中させ、興味を持続させることに苦心しました。逆に高学年になるほど、積極的な態度で放射能測定を体験していました。特に、京都府から訪れた高校生は、見学や測定体験で初めて福島県の現状を知ることができたという感想を持つ生徒が多く、ワークショップ企画当初に想定した以上の手ごたえを得ることができました。

9 月に、NPO 法人福島県有機農業ネットワーク主催の「ふくしまオーガニックフェスタ 2015」

にブース出店した際は、ワークショップ自体は行いませんでしたが、来場した子どもたちを対象に放射能クイズを実施しました。

課題として、参加人数が予想よりも振るわなかったことが挙げられます。子どもたちへの放射能教育の一環としてワークショップを企画実施しましたが、その元となるのは学校での放射能教育と言えます。そこで興味を持った子どもたちがワークショップに参加するという流れが理想的なのですが、福島市の小学校の放射能に関する年間授業時間が2時間しかないことで彼らの興味を引きづらく、校外で行われるワークショップへの参加が難しいことも分かりました。

平成 27 年度 子ども向け放射能ワークショップ 参加者数

回数	日にち	参加者	内容	人数
1	H27. 7.19	高校生	食べ物の放射能を測ってみよう！	15名
2	H27. 7.23	小学生	身の回りの放射線を測ってみよう！	2名
3	H27. 7.25	小学生	身の回りの放射線を測ってみよう！	2名
4	H27. 7.26	小学生	食べ物の放射能を測ってみよう！	1名
5	H27. 8. 4	小学生	食べ物の放射能を測ってみよう！	4名
6	H27. 8.11	小学生	食べ物の放射能を測ってみよう！	5名
7	H27.12.24	小学生	身の回りの放射線を測ってみよう！	1名
8	H28.3.31	小学生	身の回りの放射線を測ってみよう！	3名
9	H27.9.6	—	放射能クイズ (ふくしまオーガニックフェスタ 2015)	※

※放射能クイズは、往来のある会場の一角で開催したため、常に人の動きがあり、参加人数のカウントができませんでした。

子ども向け放射能ワークショップには「タケダ いのちとくらし再生プログラム」、「赤い羽根『災害ボランティア・NPO活動サポート募金』」の助成金を活用させていただきました。

●ホットスポットファインダー測定(空間線量マップ化)事業報告

空間線量測定の依頼は保護者、幼稚園、支援団体からありましたが 36 件に留まり、目標の 50 件に達することができませんでした。この 36 件の中で、保護者からの依頼は避難先から帰還した方たちが多数をしめていて、現在の空間線量(以下、線量)に納得しての帰還ではないことがうかがえました。反面、避難をせずに住み続けている方からの依頼が少なく、放射能についての意識が二極化していることが目標件数に達さなかった原因の一つと考えられます。

メインの測定場所は子どもの通学路でしたが、その他に土手や神社・幼稚園・公園などの施設の線量の確認も行いました。特に、土手や神社の裏などはまだまだ線量が高く、子どもが近づきやすい場所だけに測定に参加した保護者も厳しい表情をしていました。幼稚園の測定では、線量が高く注意が必要な場所は一部分だけだったので掃除をして線量を下げ、測定作業と同時にすぐ対処することができました。

子どもの外遊びを支援する団体からは、県外に遊びに行くのは移動時間や費用もかかるので県内の放射線量の低いところで行えないかと候補地の検討のための測定依頼でした。この測定時に、支援団体スタッフから放射線の特性や、子どもたちへの精神的なサポートについてなどいろいろな質問があり、事故から 5 年が経過するが、支援する側もまだまだ悩みながら活動していることを感じました。

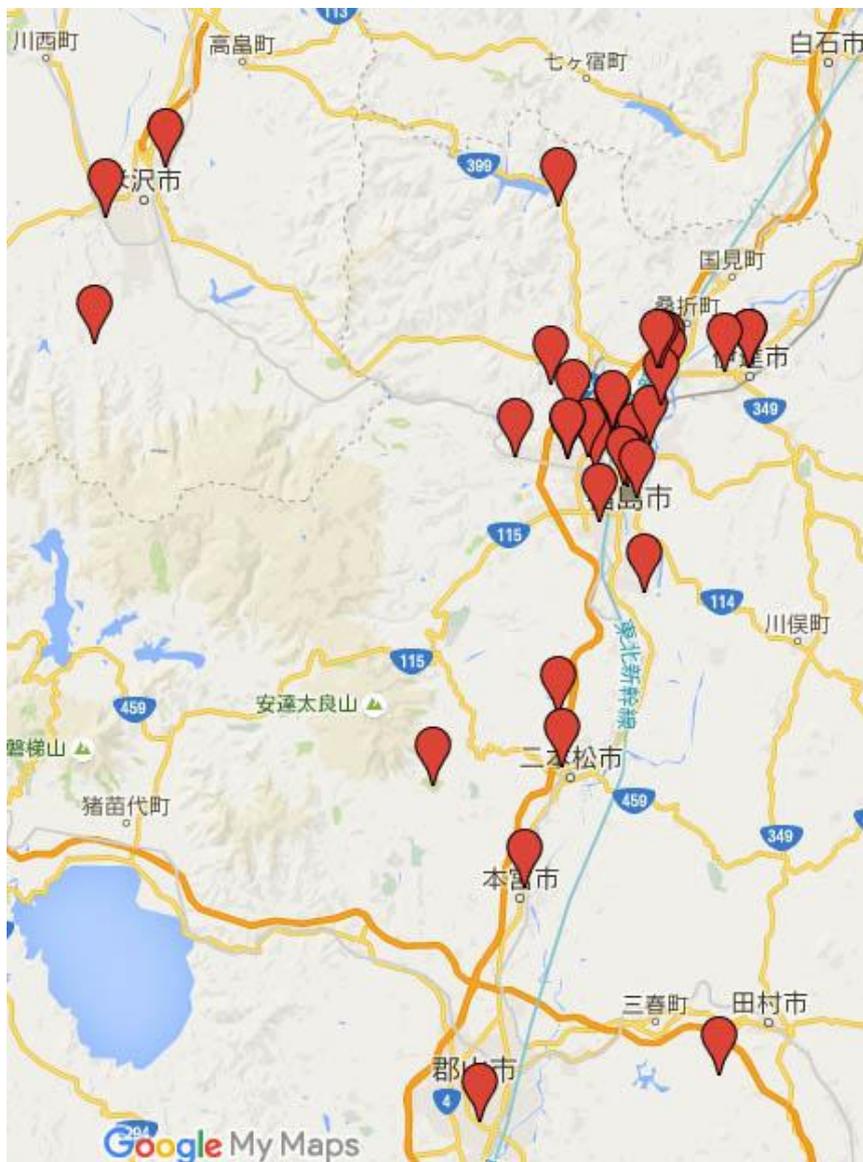
平成 27 年度まで、ホットスポットファインダー測定について福島市を中心とした地区で進めてきましたが、今後は避難地域に指定されている飯舘村や川俣町山木屋地区で積極的に行っていくことを考えています。これらの地域は避難解除が検討されており、避難住民にとっては生活空間の詳細な空間線量を知ることが重要な課題となっています。そのためには、昨年から引き続き、測定から集計・報告及び相談までできる人材を 1、2 名程度育成するための研修の必要があります。

ホットスポットファインダー測定には「タケダ いのちとくらし再生プログラム」、「ふくしま未来基金 まちづくり草の根助成」の助成金を活用させていただきました。

ホットスポットファインダー依頼先分類

分類	測定回数
保育園・幼稚園・小学校	7回
保護者	19回
支援団体	6回
市民	2回
避難者	1回
自主測定	1回
合計	36回

ホットスポットファインダー測定場所



● みんなのデータサイト（市民放射能測定データサイト）

<http://www.minnanods.net/>

参加測定室 全国 30 の放射能測定室

登録データ数 12,832 件（弊法人登録データ数 2,931 件）平成 28 年 3 月 31 日現在

土壌データ数 1,952 件（弊法人登録データ数 101 件）平成 28 年 3 月 31 日現在

弊法人は、市民による放射能測定データの共有や連携を目指して立ち上げた「みんなのデータサイト」に、幹事団体の一つとして参加しています。

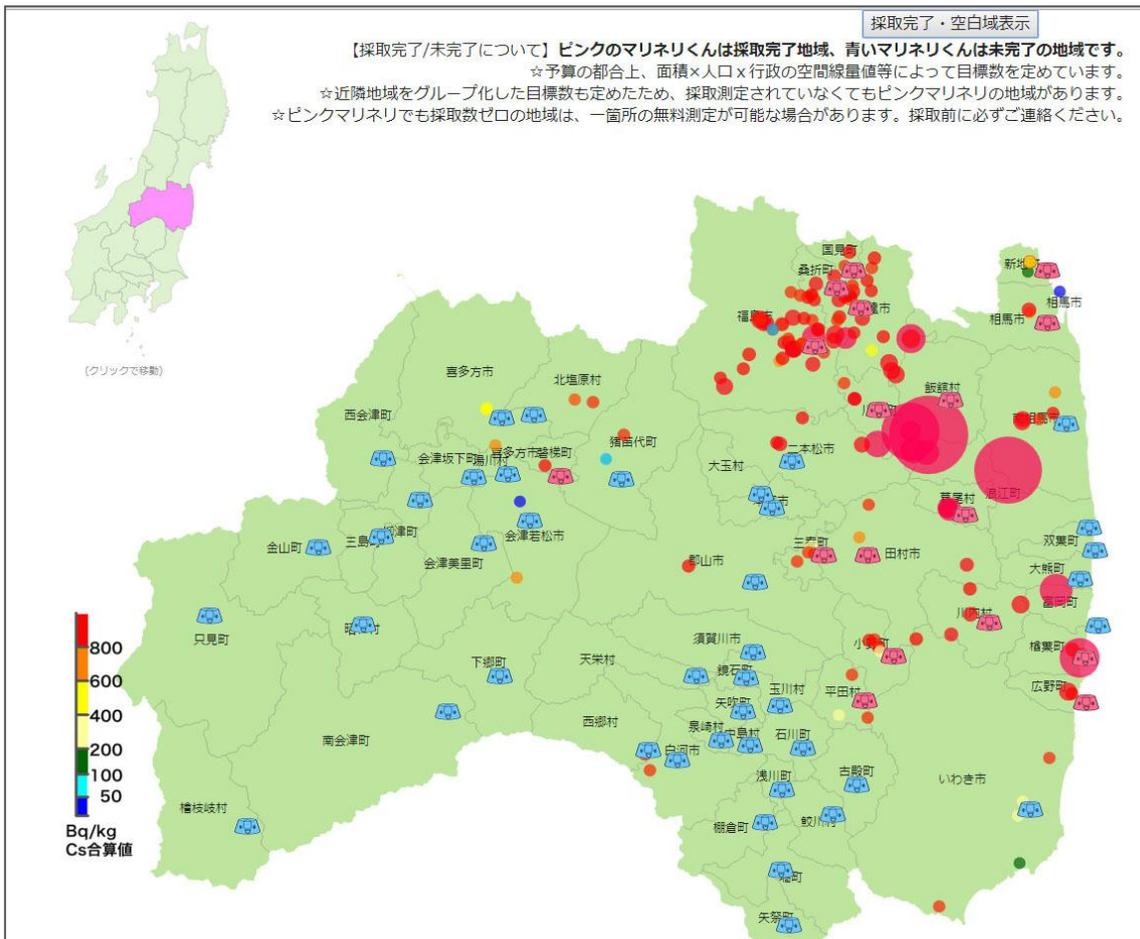
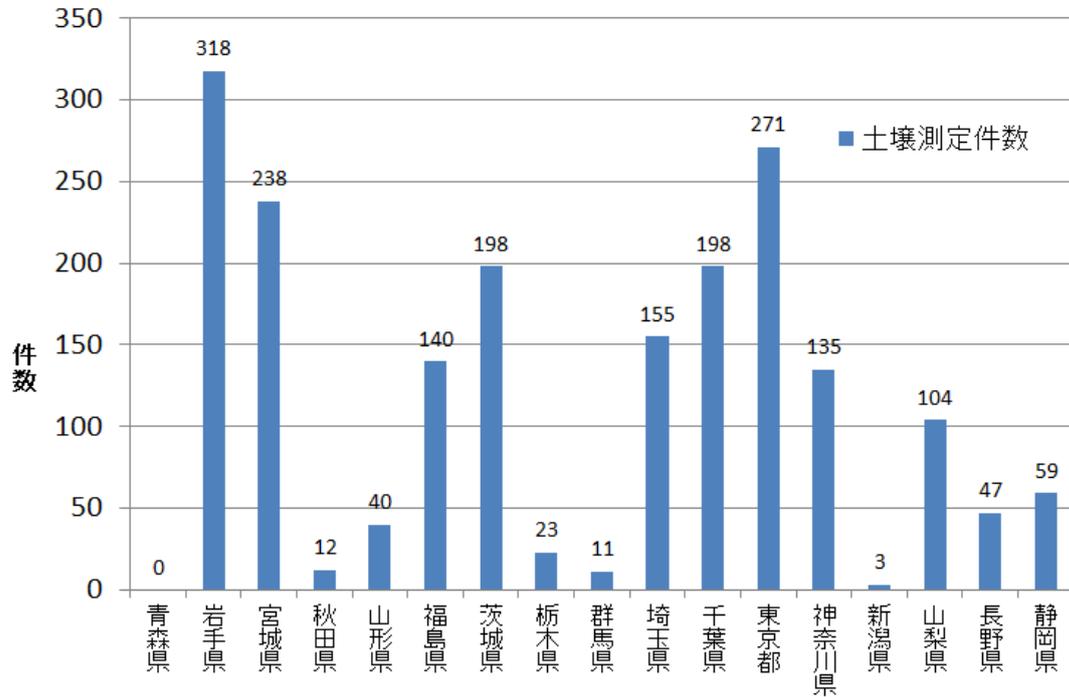
平成 27 年度、「みんなのデータサイト」は「東日本土壌ベクレル測定プロジェクト」をメインに活動しました。このプロジェクトは東日本 17 都県の土壌に含まれる放射性セシウムを測定し、放射能マップを作成することを目指しています。行政によって空間線量のマップは制作されましたが、土壌のマップは制作されていません。空間線量だけでは知りえない汚染について、土壌を詳細に測定することで明らかにしていきます。現在は、サイト上に Google マップを利用して数値を表示させていますが、最終的なプロジェクトの成果として印刷物のマップを制作する予定になっています。

土壌の測定件数としては、平成 27 年度末で 1,952 件となり、第 1 期の目標としていた 1,700 件をクリアすることができました。ただし、17 都県をまんべんなくカバーすることはできず、汚染の少ない青森県や秋田県、新潟県といった地域のデータは 0 件から多くても 12 件という状態で、今後の課題となりました。採取協力を得られないという課題は福島県内も同じで、140 件という登録データのうち、4 分の 3 は弊法人で独自に採取し測定したものです。福島県の場合は汚染が高いために逆に土壌測定に対して躊躇をしたり、検体採取の作業に煩わしさを感じたりするなど複数の理由が考えられます。これは弊法人が他に進めているプロジェクト、食品やホットスポットファインダーの測定などと共通する課題です。首都圏は順調に測定件数が伸びていますので、事故から 5 年が経過するなか、関心を持つ市民の意識に温度差が出てきたと思われれます。

※次ページに掲載しているのは「東日本土壌ベクレル測定プロジェクト」の都県別の測定件数グラフと平成 28 年 3 月 31 日現在の福島県内の測定状況です。

「みんなのデータサイト」の「東日本土壌ベクレル測定プロジェクト」は、「一般社団法人アクト・ビヨンド・トラスト」の助成金を活用させていただきました。

東日本土壌ベクレル測定プロジェクト 2016年3月29日現在



●子どもの自然体験と交流事業

子どもの自然体験と交流事業(以下、保養事業)については平成 26 年度までは他団体に協力という形でしたが、平成 27 年度から弊法人が主催して行うようにしました。弊法人主催の保養事業は準備や計画に時間をかけ秋から開始したため、冬季期間の不安定な天候に左右されることが多く予定通り行えないことがありました。これは次年度からの保養事業を行う上で
の反省点と言えます。

参加者のアンケートからは、満足度の高い反応を得ていますので、前述の点を踏まえて改善していきたいと考えています。

保養事業には「一食(いちじき)福島復興・被災者支援事業」の助成金を活用させていただきました。

主催・共催 子どもの自然体験・交流事業

日にち	場所	参加人数	
11月21～23日	山形県大江町	15名	主催
1月9～10日	会津自然の家	11名	主催
3月19～21日	猪苗代町	19名	福島ぽかぽかプロジェクトと共催
3月25～28日	山梨県甲府市	42名	じゃんじゃんキャンプ実行委員会と共催

協力実施 子どもの自然体験・交流事業

協力先団体名	協力回数	協力人数
NPO 法人青空保育たけの子	10回	13人日
パルシステム生活協同組合連合会 TEAM 毎週末みんなで山形	8回	16人日
NPO 法人シャローム災害支援センター	2回	4人日
じゃんじゃんキャンプ実行委員会	1回	4人日
合計	21回	37人日

●冊子・通信発行

◆「ふくしま 30 年リポート」発行 5 回（増刷 1 回含）（各 1,000 部）

- ・ふくしま 30 年リポート Vol.02 「食品の放射能について」
- ・ふくしま 30 年リポート Vol.03 「こども放射線ワークショップ」
- ・ふくしま 30 年リポート Vol.04

「小児科医山田真先生に聞く『免疫力って？甲状腺癌って何？』」

- ・ふくしま 30 年リポート Vol.05 「ふくしま 30 年プロジェクト通信総集編」
- ・ふくしま 30 年リポート Vol.01 増補改訂版 増刷

◆「ふくしま 30 年プロジェクト通信」発行 11 回（各 200 部前後）

「ふくしま 30 年リポート」については、前半は企画をうまくまとめられずに 1 回しか発行することができませんでした。後半は他スタッフから冊子としてまとめやすい企画案(ワークショップ・講演録)が出たので、計画どおりトータルで 4 回発行することができました。内容についても、交流会やワークショップの内容を反映することができ、事業全体の統一感を出すことができました。

冊子・通信作成及び発送には「MS_AD_ゆにぞんスマイルクラブ」「タケダ いのちとくらし再生プログラム」、「赤い羽根『災害ボランティア・NPO活動サポート募金』」の助成金を活用させていただきましました。

NPO 法人
ふくしま 30 年プロジェクト通信
福島でくらすために、自ら測り、考え、伝える

いろんな方と放射能のこーれ一緒に考えたいからーあなたの声をお聞かせください
暮らしの中の「放射線量」を測定しています

先着50名所まで無料測定受付中

福島では、学校や公園等に多くのモニタリングポストが設置され、現在の放射線量が見えるようになってきました。放射線量は、原発事故当時の風向きや降水量の違いにより地域により差があります。場所によってはモニタリングポストから数メートル離れると数値が大きく変わる場所もあります。

実際に子どもたちが、通学している道路や、散歩コース、遊び場などの放射線量がどうなっているのかを、父母や保育園の保育士さんたちと一緒に歩きながら測定する活動をNPO法人シャローム受審支援センターと協力して行っています。

放射線測定は標準的な高さの1メートル、子どもの身長に合わせて50センチメートル、地上の汚染ポイントを確認するための10センチメートルの3点で行っています。一緒に歩きながらその場で測定値を確認できるので、普段は見えない放射線がどこまでどこに集まりやすいか実感を持てます。また測定結果は衛星写真上で空間線量計がポイントごとに記載されたものを依頼者にお渡ししています。ネット上などに一般公開は行いません。

最近では、自主避難から福島に戻られたご家庭が通学路の線量を心配して測定されたり、保育園が園庭や散歩コース・遠足コースの測定されました。また、夏休みに行う自然体験のキャンプ場の線量確認などを行いました。年間50名所まで無料測定を予約いたしますのでお気軽に申込みください。
(しみず よしひろ)



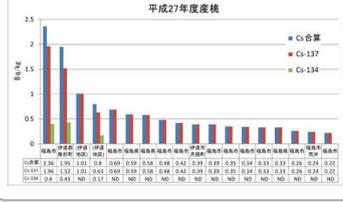
NPO 法人
ふくしま 30 年プロジェクト通信
福島でくらすために、自ら測り、考え、伝える

いろんな方と放射能のこーれ一緒に考えたいからーあなたの声をお聞かせください
今年の桃 26 検体はすべて 3Bq/Kg 以下

桃は、原発事故発生年の年に福島県の農水産物モニタリング情報でも高い数値、101Bq/kgが出るなど、桃実の中ではセシウムが移行しやすい食品でした。そんなわけで毎年測定を続け、今年はトータルで26件の測定をしました。

その26件の測定結果のグラフと表です。半減期が2年のセシウム134はほとんどが検出されず、セシウム137についても2Bq/kgを超えるものはなくなりました。果皮洗浄効果が奏したといえます。

平成27年度産桃



検体番号	検体名	Cs-137 (Bq/kg)	Cs-134 (Bq/kg)
01	伊達市 伊達市立第一小学校	0.1	ND
02	伊達市 伊達市立第二小学校	0.2	ND
03	伊達市 伊達市立第三小学校	0.3	ND
04	伊達市 伊達市立第四小学校	0.4	ND
05	伊達市 伊達市立第五小学校	0.5	ND
06	伊達市 伊達市立第六小学校	0.6	ND
07	伊達市 伊達市立第七小学校	0.7	ND
08	伊達市 伊達市立第八小学校	0.8	ND
09	伊達市 伊達市立第九小学校	0.9	ND
10	伊達市 伊達市立第十小学校	1.0	ND
11	伊達市 伊達市立第十一小学校	1.1	ND
12	伊達市 伊達市立第十二小学校	1.2	ND
13	伊達市 伊達市立第十三小学校	1.3	ND
14	伊達市 伊達市立第十四小学校	1.4	ND
15	伊達市 伊達市立第十五小学校	1.5	ND
16	伊達市 伊達市立第十六小学校	1.6	ND
17	伊達市 伊達市立第十七小学校	1.7	ND
18	伊達市 伊達市立第十八小学校	1.8	ND
19	伊達市 伊達市立第十九小学校	1.9	ND
20	伊達市 伊達市立第二十小学校	2.0	ND
21	伊達市 伊達市立第二十一小学校	2.1	ND
22	伊達市 伊達市立第二十二小学校	2.2	ND
23	伊達市 伊達市立第二十三小学校	2.3	ND
24	伊達市 伊達市立第二十四小学校	2.4	ND
25	伊達市 伊達市立第二十五小学校	2.5	ND
26	伊達市 伊達市立第二十六小学校	2.6	ND

「ふくしま 30 年プロジェクト通信」



「ふくしま 30 年レポート」Vol.02～Vol.04

●コンサート

7 月 28 日(火) 伊藤英 超絶ピアノライブ (CHANNEL SQUARE)

10 月 2 日(金) 東日本大震災支援 土田英順 チェロコンサート (福島市古関裕而記念館)

平成 27 年度は交流会事業を積極的に進めたことと連動して、ピアノライブやチェロコンサートを行いました。今までにない事業でしたので集客に不安がりましたが、ピアノライブ:35 名、チェロコンサート:61 名と両会場とも満員に近い人数になりました。チェロコンサートではアンケートの協力もお願いし、多くの方から満足との感想を得られました。

東日本大震災支援コンサート
 チェロ奏者 **土田英順**
 10月2日(金) 入場無料 (先着順定員50名)
 開演 18:30 (開場 18:15)



会場
福島市古閑裕而記念館
 サロンスペース
 (福島市入江町1-1)

土田英順 (つちだえいじゅん) さんプロフィール
 日本フィル、新日本フィル、札幌交響楽団の首席チェロ奏者を歴任。
 ボストン響およびボストン・ポップスでも演奏。現在は、ソリストとして活躍し、年間何本ものコンサート
 スタジウムをこなす。被災地に滞在し、光澤潔の犠牲となった女性のチェロに出会い、持ち前の友人達の
 思いよせて、ボロボロになったチェロを買い取り、復元に専られた。チェロの音色が天国まで届く事を願
 いながら、今日「ごんじち」も被災したチェロを奏でる。
 北海道内各地で「東日本大震災チャリティコンサート」を開催。2012年12月、自ら「東日本大震災支援
 したん子ども基金」を開設。基金は被災地の子供達のために使われる。
 (北洋銀行 札幌西支店 普通 5 1 6 1 6 0 口座名 東日本大震災支援 したん子ども基金代表 土田英順)
 ブログ:「ボストンバックのチェロと僕」 <http://blog.hokkaido-np.co.jp/enjoycello/>

〈主催・申し込み先〉 財団法人 ふくしま30年プロジェクト 電話: 024-573-5697
 申込みは人数を要電話、又は申し込み専用フォームからお申込みください。
 【申し込み専用フォーム】 http://fukushima-30year-project.org/?page_id=2437



「東日本大震災支援 土田英順 チェロコンサート」

●講演等

- 9月6日(日) オーガニックフェスタ パネルディスカッション(佐原)
- 10月2日(金) 映画『選挙フェス!』上映&ふくしまチャランケ!(佐原)
- 10月22日(木) 曹洞宗 講演会(清水)
- 11月29日(日) 第1回福島原子力災害対策・復興研究会(佐原)
- 1月23日(土) 西東京市公民館市民企画事業公開講座
 「放射能汚染と向き合うための基礎知識」(佐原)
- 3月8日(火) NHK 総合「おはよう日本」出演 (佐原)

●書籍・物品販売・測定器レンタル事業

書籍販売売上、147,641 円、物品販売売上 83,900 円
 測定器レンタル利用者数 のべ 4 人

●会員数

平成 27 年度末の時点で本会員は 13 名と 1 名増えました。賛助会員については 140 名と 47 名増加しましたが、目標とした人数(150 名増)の 3 分の 1 に留まりました。さらに、賛助会員の年度更新をされた方も減少したため、最終的には賛助会員数 97 名となり、平成 26 年度と比較して会員人数の増減はほとんどないという結果になりました。ニュースレターを発行するなど逐次、活動報告はしましたが、継続的に支援できる組織と判断された方が少なかったのかもしれない。

賛助会員数を拡大することは弊法人が幅広く支持されていることの証左になり、社会的な信用を得るとともにスタッフの活動のモチベーション向上にもなります。今後の賛助会員数の拡大についての方策をもう一度見直し、また、現在賛助会員となっている方々の満足度も上げることで会員数の安定と財政的な組織の基盤強化を目指さなければならないと考えています。